

## 松が谷高校の生徒の皆さんへ（3） ー校長メッセージー（5月7日）

### 学びの多様化について

皆さんご存じのとおり、国の緊急事態宣言が延長され、5月31日（日）まで休業期間が延びました。不安な日が続きますが、体調を崩している人はいませんか？

現在学校では休業期間の長期化を見据え、オンラインを含めた学習支援について、先生方とチームを組んで計画を立てているところです。今回のメッセージでは、従来型のアナログ的な学びと、今注目されているデジタル的な学びについて、お話ししたいと思います。

先日、ある全国版の新聞を読んでいたら、読者の投稿欄に「どう思いますか アナログな授業」というテーマで、以下の4人の意見が紹介されていました。以下は概略です。

#### Aさん（高校生）

私の高校では、一つ下の学年から1人1台タブレット端末を使用している。（中略）時折、学校の中で「タブレットで授業をすればよい」「パソコンを自在に操れる子ほど優れている」という空気を感じる。大事なことはデジタル化ではなく、学び方を認め合うことではないか。従来の授業が合っている子もいる。自分に合う方法が良い学習であることを伝えたい。

#### Bさん（元高校教員）

約40年間、高校で地理・歴史の授業を担当してきた経験から補助教材の重要性を痛感した。（中略）資料集の充実ぶりは50年前とは全く違う。現在では情報量が多い分、生徒一人ひとりが目的の情報にたどり着くのに多くの時間がかかる。これらをデジタル化し、タブレットなどで活用すれば授業の効率化、資源の節約のほか、生徒の負担が「軽く」なる。

#### Cさん（大学生）

中学生の頃から授業でノートを取ることが好きだ。書き込んでよれよれになった教科書や何冊にも及ぶノートを見ると、努力が一目瞭然でモチベーションアップにもつながる。（中略）大学では、講義でスクリーンに映されるスライドをプリントして事前に配布される授業がある。アナログで得られるものを明確にした上で、デジタルをうまく活用することが求められているのではないか。

#### Dさん（大学教員）

理系学部でICT（情報通信技術）機器を使いながら英語を教えています。学生はノートパソコン持ち込みが前提で、Web上の掲示板に課題を提出させ、授業中に参考資料の送信もします。（中略）ただ、つい手元のパソコン操作に気を取られ、学生の目を見るのがおろそかになることがあります。どんなにデジタルを駆使した授業が進んでも、主役は学生で、機器ではありません。

どうでしょう？ 4人の意見に共通する考え方があることに気づきましたか？ そうです。黒板、ノート、紙の資料集など「アナログ」的な学びと、タブレット、パソコンなど「デジタル」的な学びにはそれぞれ良さがあり、この「アナログ」と「デジタル」を融合した「ハイブリッド」学習が望ましいのでは、ということです。つまり多様な学びの共存ですね。

これを皆さんの休業期間中の学習に置き換えると、課題として出された教科書やプリントなど紙の教材による学習と、オンラインによる動画視聴などの学習をバランスよく組み合わせるということになります。さらに皆さんには、時間がある今だからこそ、自分の関心のある分野の中から1つテーマを見つけて、本を読んだり、ネットで調べたりして、自分の考えも含めてレポートにしてまとめてみることをおすすめします。こうした探究的な学習は、皆さんの10年先、20年先を見据えた進路実現にもきっと役立つと思います。

令和2年5月7日  
都立松が谷高等学校長  
博田 英明